授業科目名・形態	手　話　　演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	三ヶ田　典明	実務経験の有無	有	開講期	１～２年前期
科目ナンバリング	C1-1016				

【授業の主題】

聴覚障害は外見からは分かりにくく、その特性が理解されないことで誤解や疎外が生じやすい。
しかし、医療・福祉の現場においても、障害特性を理解し、手話・指さし・筆談などの適切なコミュニケーション手段を用いることで、聴覚障害者とのコミュニケーションバリアは軽減できる。
本講義では、聴覚障害者と接する際の留意点を学び、会話に必要な手話の基礎技術の習得を目指す。

【到達目標】

1. 聴覚障害の基礎知識と支援方法を理解できる。
2. 手話で自己紹介や簡単な日常会話ができる。
3. 指文字 50 音を正確に表出し、読み取りができる。(必須)
4. 聴覚障害者を取り巻く社会の現状と、必要な支援の方向性を説明できる。

【授業計画・内容】

第 1 回　講義…手話・聴覚障害の基礎知識　　実技…目で見ることばを使ってみましょう（見る・表現する）
第 2 回　　実技…自己紹介２～４（名前・数・家族・指文字）
第 3 回　　実技…自己紹介５～７（交通・趣味・仕事）
第 4 回　実技試験…ビデオ収録（授業内で撮影し評価する）
第 5 回　難聴擬似体験（言われていることが分からない＝音声で情報が得られない体験をする）
第 6 回　講義…ろう教育について　　実技…まとめ１（疑問詞と指文字の復習）
第 7 回　　実技…１週間のことを話しましょう（時に関わる表現）
第 8 回　　実技…スポーツや趣味について（繰り返し表現）
第 9 回　講義…手話通訳とは　　実技…冷蔵庫を買いに行きましょう（形を表す表現）
第 10 回　　実技…家の近くのこと、ゲスト交流の練習
第 11 回　実技試験…聴覚障害ゲストとの交流（手話積極的に会話ができているか）
第 12 回　聴覚障害者活動と福祉制度　　実技…旅行に行きましょう（動詞や名詞を先に出す表現）
第 13 回　　実技…病気やケガについて（体の状態を具体的に伝える）
第 14 回　　実技…イベントの計画を立てましょう（否定の表現方法）
第 15 回　手話サークルとは　　実技…学校のことを話しましょう（第三者の話を伝える）

【授業実施方法】

・講義・解説……講義形式で行う。主にパワーポイント資料を用いて解説する。
・実技演習……グループワークによる演習・発表を行う。主に音声以外の方法を用いて指導する。
　　授業の最後にはリアクションペーパーを記入してもらう。

【事前・事後学習】

手話動画視聴システムを使用して、事前にその授業で使う単語の予習、事後はホームワークを行うこと。

【主な関連する科目】

障害者福祉論・コミュニケーション技術・コミュニケーション論

【教科書等】

テキスト：手話を学ぼう手話で話そう［全面改訂版］（発行：全国手話研修センター）
補助教材：手話動画視聴システム

【参考文献】

適宜講義中に指示する。

【成績評価方法】

筆記試験 40%、実技試験 40%、演習への取り組み 10%、リアクションペーパー10%により評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

聴覚障害当事者団体の役員として、全国・県レベルの大会開催及び手話指導を 40 年間行ってきた経験から、実例を織り交ぜ、手話は手先の技術だけを学ぶのではなく、背景にある聴覚障害者の生活に対する理解や信頼関係が重要なことに気づかせる。

【学生へのメッセージ】

聞こえる人の常識では「会話は通じるのが当たり前」であるが、聴覚障害者の常識は「通じないことを前提に努力する」である。授業中に通じないことを恥と思わず、習った手話を積極的に使ってほしい。